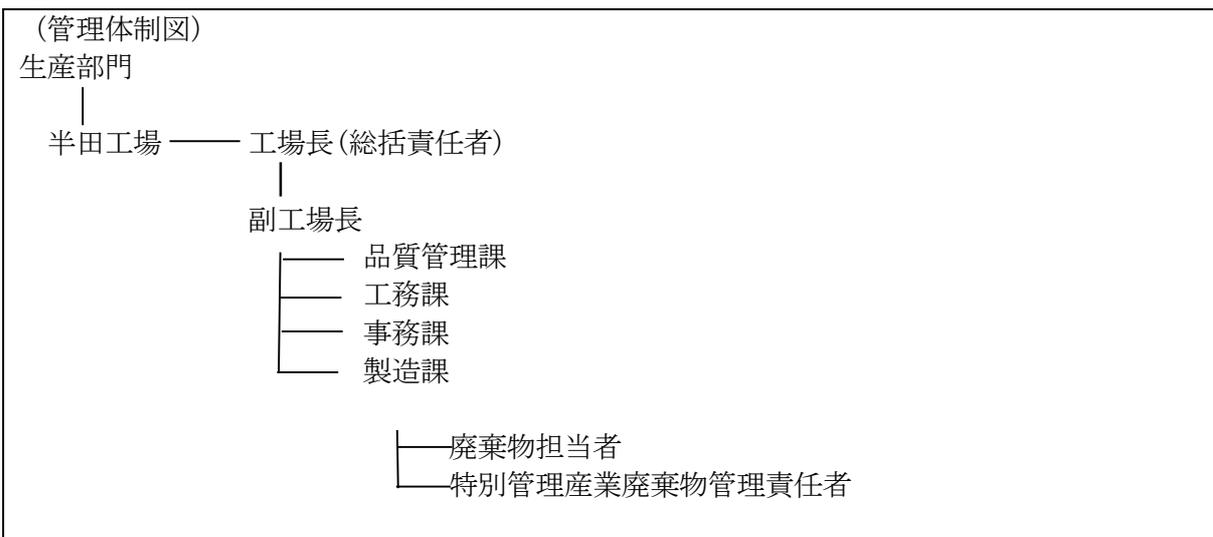


(第1面)

産業廃棄物処理計画書 令和6年 6月28日	
愛知県知事 殿	
提出者 住 所 愛知県半田市日東町1番の9 氏 名 大八化学工業株式会社 半田工場 工場長 金原 真司 (法人にあつては、名称及び代表者の氏名) 電話番号 569-22-4611	
廃棄物の処理及び清掃に関する法律第12条第9項の規定に基づき、産業廃棄物の減量その他その処理に関する計画を作成したので、提出します。	
事業場の名称	大八化学工業株式会社半田工場
事業場の所在地	愛知県半田市日東町1番の9
計画期間	令和6年4月1日～令和7年3月31日
当該事業場において現に行っている事業に関する事項	
①事業の種類	16：化学工業
②事業の規模	338,287万円
③従業員数	59人
④産業廃棄物の一連の処理の工程	汚泥：自社中間処理(脱水)→中間処理業者に委託し焼却もしくはコンクリート固化後、埋立処分、又は中間処理業者にて生物処理後、土壌改良として使用、又は中間処理業者にて焼却後埋立処分 廃油：中間処理業者に委託して焼却後、埋立処分、又は混合エマルジョン処理して燃料化 廃酸：焼却して埋立処分 廃アルカリ：中間処理業者に委託して焼却後、埋立処分 廃プラスチック類：中間処理業者に委託して焼却又は破碎選別後、埋立処分 ガラスくず：中間処理業者に委託して選別して、埋立処分

産業廃棄物の処理に係る管理体制に関する事項



産業廃棄物の排出の抑制に関する事項

①現状	【前年度（令和5年度）実績】		別紙の通り
	産業廃棄物の種類		
	排出量	t	t
	(これまでに実施した取組)		
②計画	【目標】		別紙の通り
	産業廃棄物の種類		
	排出量	t	t
	(今後実施する予定の取組)		

産業廃棄物の分別に関する事項

①現状	(分別している産業廃棄物の種類及び分別に関する取組) 特になし
②計画	(今後分別する予定の産業廃棄物の種類及び分別に関する取組) 特になし

## (第3面)

自ら行う産業廃棄物の再生利用に関する事項			
①現状	【前年度（令和5年度）実績】		
	産業廃棄物の種類		
	自ら再生利用を行った産業廃棄物の量	0 t	0 t
	（これまでに実施した取組） 特になし		
②計画	【目標】		
	産業廃棄物の種類		
	自ら再生利用を行う産業廃棄物の量	0 t	0 t
	（今後実施する予定の取組） 特になし		
自ら行う産業廃棄物の中間処理に関する事項			
①現状	【前年度（令和5年度）実績】		
	産業廃棄物の種類	有機汚泥	無機汚泥
	自ら熱回収を行った産業廃棄物の量	0 t	0 t
	自ら中間処理により減量した産業廃棄物の量	108 t	1012 t
（これまでに実施した取組） 脱水による減量を実施しており、処理後、含水率管理の徹底を行っている。			
②計画	【目標】		
	産業廃棄物の種類	有機汚泥	無機汚泥
	自ら熱回収を行う産業廃棄物の量	0 t	0 t
	自ら中間処理により減量する産業廃棄物の量	259 t	2412 t
（今後実施する予定の取組） 無機汚泥の脱水機更新に伴い、含水率を低減し、廃棄物量の削減を検討する。			

## (第4面)

自ら行う産業廃棄物の埋立処分又は海洋投入処分に関する事項		
①現状	【前年度（令和5年度）実績】	
	産業廃棄物の種類	
	自ら埋立処分又は海洋投入処分を行った産業廃棄物の量	0 t
	(これまでに実施した取組) 該当なし	
②計画	【目標】	
	産業廃棄物の種類	
	自ら埋立処分又は海洋投入処分を行う産業廃棄物の量	0 t
	(今後実施する予定の取組) 該当なし	
産業廃棄物の処理の委託に関する事項		
①現状	【前年度（令和5年度）実績】別紙の通り	
	産業廃棄物の種類	
	全処理委託量	t
	優良認定処理業者への処理委託量	t
	再生利用業者への処理委託量	t
	認定熱回収業者への処理委託量	t
	認定熱回収業者以外の熱回収を行う業者への処理委託量	t
	(これまでに実施した取組)	

②計画	【目標】 別紙の通り		
	産業廃棄物の種類		
	全処理委託量	t	t
	優良認定処理業者への 処理委託量	t	t
	再生利用業者への 処理委託量	t	t
	認定熱回収業者への 処理委託量	t	t
	認定熱回収業者以外の 熱回収を行う業者への 処理委託量	t	t
	(今後実施する予定の取組)		
※事務処理欄			

(第6面)

備考

- 1 前年度の産業廃棄物の発生量が1,000トン以上の事業場ごとに1枚作成すること。
- 2 当該年度の6月30日までに提出すること。
- 3 「当該事業場において現に行っている事業に関する事項」の欄は、以下に従って記入すること。
  - (1)①欄には、日本標準産業分類の区分を記入すること。
  - (2)②欄には、製造業の場合における製造品出荷額（前年度実績）、建設業の場合における元請完成工事高（前年度実績）、医療機関の場合における病床数（前年度末時点）等の業種に応じ事業規模が分かるような前年度の実績を記入すること。
  - (3)④欄には、当該事業場において生ずる産業廃棄物についての発生から最終処分が終了するまでの一連の処理の工程（当該処理を委託する場合は、委託の内容を含む。）を記入すること。
- 4 「自ら行う産業廃棄物の中間処理に関する事項」の欄には、産業廃棄物の種類ごとに、自ら中間処理を行うに際して熱回収を行った場合における熱回収を行った産業廃棄物の量と、自ら中間処理を行うことによって減量した量について、前年度の実績、目標及び取組を記入すること。
- 5 「産業廃棄物の処理の委託に関する事項」の欄には、産業廃棄物の種類ごとに、全処理委託量を記入するほか、その内数として、優良認定処理業者（廃棄物の処理及び清掃に関する法律施行令第6条の11第2号に該当する者）への処理委託量、処理業者への再生利用委託量、認定熱回収施設設置者（廃棄物の処理及び清掃に関する法律第15条の3の3第1項の認定を受けた者）である処理業者への焼却処理委託量及び認定熱回収施設設置者以外の熱回収を行っている処理業者への焼却処理委託量について、前年度実績、目標及び取組を記入すること。
- 6 それぞれの欄に記入すべき事項の全てを記入することができないときは、当該欄に「別紙のとおり」と記入し、当該欄に記入すべき内容を記入した別紙を添付すること。また、産業廃棄物の種類が3以上あるときは、前年度実績及び目標の欄に「別紙のとおり」と記入し、当該欄に記入すべき内容を記入した別紙を添付すること。また、それぞれの欄に記入すべき事項がないときは、「―」を記入すること。
- 7 ※欄は記入しないこと。

産業廃棄物の排出の抑制に関する事項									
①現状	【前年度(令和5年度)実績】								
	産業廃棄物の種類	有機汚泥	無機汚泥	廃油	廃酸	廃アルカリ	ガラスくず	廃プラスチック	合計
	排出量	126t	1119t	22t	154t	76t	0.28t	21t	1518t
	(これまでに実施した取組) ・廃棄物の多くが廃水処理設備から発生しており、生産量に応じて増減するため抑制は難しい ・廃油に関しても、当社は受注生産のため抑制は難しい。								
②計画	【目標】								
	産業廃棄物の種類	有機汚泥	無機汚泥	廃油	廃酸	廃アルカリ	ガラスくず	廃プラスチック	合計
	排出量	300t	2529t	21t	147t	80t	0.3t	26t	3103t
	(今後実施する予定の取組) ・廃棄物の多くが廃水処理設備から発生しており、生産量に応じて増減するため抑制は難しい ・廃油に関しても、当社は受注生産のため抑制は難しい。								
※事務処理欄									

産業廃棄物の処理の委託に関する事項									
①現状	【前年度(令和5年度)実績】								
	産業廃棄物の種類	有機汚泥	無機汚泥	廃油	廃酸	廃アルカリ	ガラスくず	廃プラスチック	合計
	全処理委託量	18t	107t	22t	154t	76t	0.28t	21t	398t
	優良認定処理業者への処理委託量	2t	107t	22t	154t	76t	0.28t	21t	382t
	再生利用業者への処理委託量	16t	0t	7t	0t	0t	0.03t	0t	23t
	認定熱回収業者への処理委託量	2t	10t	15t	154t	76t	0t	13t	270t
	認定熱回収業者以外への熱回収を行う業者への処理委託量	0t	0t	0t	0t	0t	0.00t	0t	0.0t
(これまでに実施した取組) 汚泥に関して、廃棄物再生利用が可能な処理業者への委託を優先。 熱回収可能な処理業者への委託を優先。									
②計画	【目標】								
	産業廃棄物の種類	有機汚泥	無機汚泥	廃油	廃酸	廃アルカリ	ガラスくず	廃プラスチック	合計
	全処理委託量	41t	117t	21t	147t	80t	0.3t	26t	432t
	優良認定処理業者への処理委託量	2t	117t	21t	147t	80t	0.3t	26t	393t
	再生利用業者への処理委託量	39t	0t	11t	0t	0t	0t	0t	50t
	認定熱回収業者への処理委託量	2t	10t	10t	147t	80t	0t	5t	254t
	認定熱回収業者以外への熱回収を行う業者への処理委託量	0t	0t	0t	0t	0t	0t	0t	0t
(今後実施する予定の取組) 汚泥に関して、廃棄物再生利用が可能な処理業者への委託を優先。 熱回収可能な処理業者への委託を優先。 無機汚泥の脱水機更新に伴い、含水率を下げることによる廃棄物量の削減を行う。									
※事務処理欄									